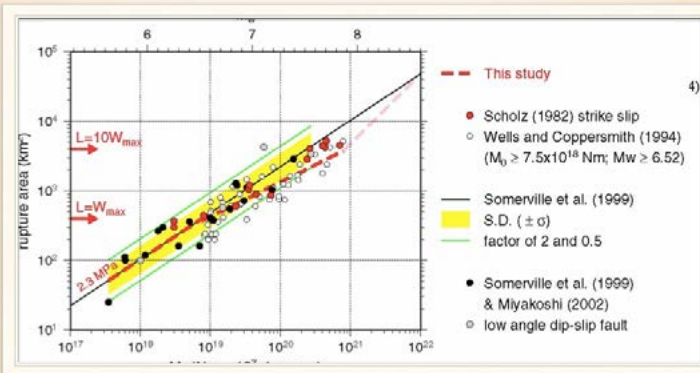


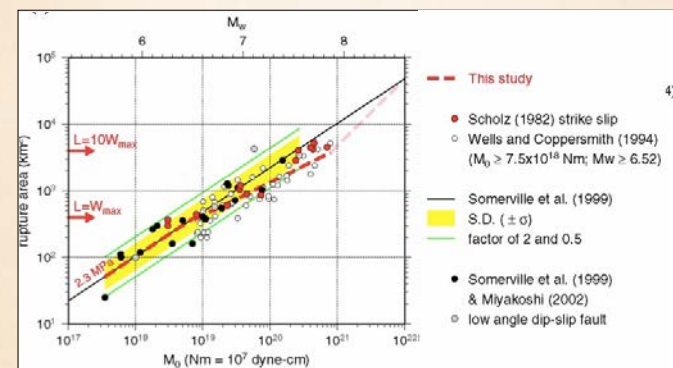
島崎証人の疑問に答える審理を

平成29年6月5日付け進行に関する意見書



1

争いようのない客観的事実



基準地震動のベースは地震の「平均像」
→ばらつきは生じうる

2

一審被告による「平均像」の正当化

地域性の十分な調査と考慮

「不確かさ」の十分な考慮

安全審査の厳しいチェック

3

一審被告による「平均像」の正当化

震源域までの地下構造は不明

入倉・三宅式の過小評価

安全審査は改訂レシピ無視

島崎証言により根幹を否定

4

一審被告による「平均像」の正当化

島崎証言により根幹を否定



「平均」を超える地震により
深刻な事態を生じる危険性

5

国会事故調
報告書



福島県内で
1800km²

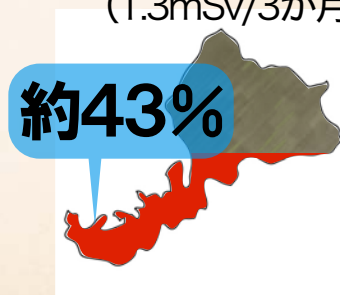
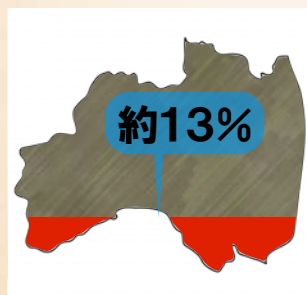
年間積算線量

5mSv ≡ **放射線
管理区域**
(1.3mSv/3か月)

6

年間積算線量

5mSv ≡ **放射線
管理区域**
(1.3mSv/3か月)



7



高村薫さん絶賛!

「国策に寄り添ってきた裁判所を
3・11が変えつつある
これは希望である」

元判事が初めて明かす苦悩——朝日新聞記者2人による当事者たちへの徹底取材! 朝日新聞出版 文庫 (ISBN 978-4-02-250000-1)

朝日新聞出版 2013

8

女川原発1・2号機訴訟
塚原朋一裁判長

これについては、いま、反省する気持ちがあります。

私は裁判長をしていたとき、『**何で住民はそんなことを恐れているんだ？**』『**気にするのはおかしいだろう**』と思っていました。その程度だったらいんじゃないかと考え、『**無視しうる程度**』という表現に至ったのです。

9

元最高裁判事
藤田宙靖氏

「裁判所も、私も含めた国民一般と同様、基本的には、いわゆる『**原発安全神話**』の中にいたのだと思います。原告はわずかな技術的な問題を**針小棒大に騒ぎ立てているのではないか**、と思った**裁判官も少なくなかったのではない**でしょうか。」

10

今後の審理に求められるもの

島崎証言の十分な検討

地盤調査の問題の解明

安全審査の徹底的検証

11

地盤調査の問題の解明

新潟大学名誉教授
(地質学)

立石雅昭
証人尋問

- 原発の地盤調査は最近の調査方法から立ち遅れ
- 柏崎刈羽が大幅に基準地震動を超えた原因も未解明
- 大飯の地盤調査はさらにお粗末、基準地震動超過の危険あり

12

地盤調査の問題の解明

- 大飯の地盤調査は最近の調査方法から立ち遅れ
- 一審被告は不十分な調査結果さえゆがめて解釈、基準地震動を過小評価

元京都大学助教授
(地震工学, 自然災害科学等)

赤松純平
証人尋問

13

安全審査の徹底的検証

東京大学地震研究所
教授
(強震動地震学)

瀬瀬一起
証人尋問

- 現在の安全審査はレシビの考え方に違反
- 地震の科学には限界
- 大飯の基準地震動は将来起こりうる地震への備えとしては不十分

14

今後の審理に求められるもの

島崎証言の十分な検討

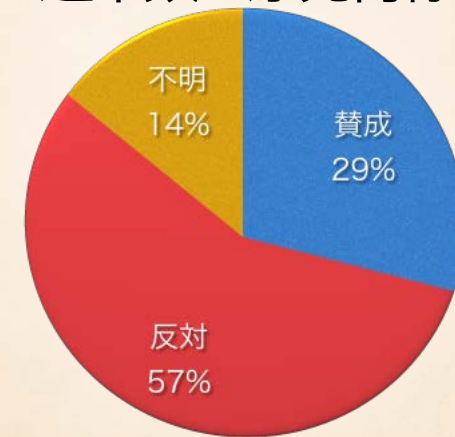
地盤調査の問題の解明

安全審査の徹底的検証

審理の早期終結はあり得ない

15

国民の過半数は原発再稼働反対



朝日新聞世論調査2016年10月

16